

各地で行われたイベント&話題を紹介するコーナーです。

和太鼓の魅力体験

口和備神太鼓が和太鼓講座

口和備神太鼓の和太鼓講座が、12月から口和文化ホールで始まりました。

月2回、3月までの講座に、20人が参加。

参加者は、バチの素振りや廃タイヤを使って、太鼓を叩く要領を学び、手にマメを作りながら熱心に取り組んでいました。「ドンドンドン…」とタイヤを叩く音がリズム良く鳴ってくると、本物の太鼓に挑戦。講師が叩く音と違う音に苦笑いがこぼれる中、必死にリズムに合わせ、叩いていました。

「講座が修了する3月までには勇壮な太鼓の音を響かせたい」と参加者は話していました。



廃タイヤで練習する参加者

高校生がふるさとを英語で紹介

英語版の高野ガイドブックを作製

庄原格致高校高野山分校の3年生が英語で高野町を紹介するガイドブック「TAKANO in ENGLISH」を作製しました。

身近なことを英語で表現してみようと、総合的な学習の「英語でコミュニケーション」講座で取り組み、高野町の魅力をA5版20ページの冊子にまとめました。



作製したガイドブック



完成を喜ぶ生徒と先生

ガイドブックには、高喜ダムや特産品のりんごと大根、雪合戦などを、写真やイラスト付で英訳と日本語で分かりやすく紹介。庄原市役所や高野支所などへ配布しました。

生徒たちは「英訳していく作業は難しかったが、ガイドブックを作る中で、身近なはずのふるさとを改めて再認識することができた。高野町のほんの一部しか紹介できなかったが、高野町の素晴らしさを感じてほしい」と話していました。

親子で食の大切さを学ぶ

おやこの食育教室

調理を通じて、食習慣と豊かな心を身につけようと12月20日、高野福祉保健センターで「おやこの食育教室」が開催されました。

高野町食生活改善推進員連絡協議会の主催で、下高保育所年長児の親子と子育て推進委員約30人が参加しました。

栄養士と保健師から「食育の大切さ」について学んだ後、スープカレー・水菜サラダ・りんごパイに挑戦しました。

参加した保護者は「家で一緒に料理をする事がないのでよかった」「子どもがこんなにできるとは思わなかった。いろいろな経験をさせ、食育の大切さを親から子へ伝えていきたい」など、さまざまな感想を話していました。

1月22日には、新市保育所でも「おやこの食育教室」が開催されました。



親からりんごの皮むきを学ぶ

防災に向け気持ちを新たに

庄原市消防出初式

平成20年庄原市消防出初式が1月13日、総合体育館で行われ、消防団員875人と備北地区消防組合の消防署員57人が参加しました。

式では、団員への辞令交付や永年勤続者たちへの感謝状の贈呈、滝口季彦市長による観閲などが行われました。また、初期消火に努めたとして一般市民の磯川アイ子さん（川北町）と松島康雄さん（高野町）が、庄原市消防団長から表彰されました。

山口忠男団長は「過疎・高齢化が進み、災害弱者が増えている。過疎化の進む地域を支えるのは我々消防団であると自覚し、防火・防災・防犯に組織力を生かして地域の安全・安心を守ろう」と訓示しました。

昨年、庄原市では41件の火災が発生し、一昨年より10件増えています。



新入団員を代表し、出口聡さんが宣誓

各地域の雑煮を食べ比べ

七福雑煮を楽しむ会

市内各地域の雑煮を味わう「七福雑煮を楽しむ会」が1月9日、庄原市街地の楽笑座で行われました。

市民グループ「楽笑座友の会」が主催し、庄原・東城・高野・比和・総領の5地域から出店。

ブリやハマグリ、野菜を入れた具たくさんなものから、山陰で採れる岩のり「うっぷり」を入れたもの、香たけを入れたものなど、各地域の特色ある雑煮が用意されました。

同じしょうゆベースでも、だしや具材によって味が異なるため、多くの客が2杯以上注文し、各地域の雑煮を食べ比べていました。

「おいしい雑煮を食べて、縁起のいい年にしたい」と、準備された約300食は完売しました。



多くの客が2杯以上注文

親子で手漉き和紙に挑戦

総領公民館親子体験教室

総領公民館が1月12日と26日の両日、総領町高齢者能力活用センターで紙漉きの親子体験教室を開催しました。

総領和紙研究会の秋山和子さんと大下芳枝さんが講師で、総領町の紙漉きの歴史、材料や作業について説明。参加した小学生らは、材料のミツマタを棒でたたいて繊維を細かく、柔らかくする作業や、紙を漉く練習を行いました。また、冷たい水の中に溶け込んだ繊維を簾ですくい、繊維がかたよらないように手伝ってもらいながら漉く作業や、漉きあがった薄い紙が破れないように簾からはずす作業を楽しみながら体験しました。

26日には、自分で紙を漉き、薄く漉いた紙を数枚重ねて乾燥させて1枚の和紙を作りました。



講師から作業を学ぶ

交通安全の願いを込める

東城でポスター展示会

1月7日から11日までの5日間、市役所東城支所1階ホールで、交通安全ポスター展示会（東城交通安全協会主催）が開催されました。

東城地域の小学校から寄せられた作品107点のうち、広島県交通安全協会賞銅賞1点、庄原警察署長賞6点、東城交通安全協会賞金賞5点、銀賞11点を展示。

広島県交通安全協会賞を受賞した田辺円香さん（小奴可小6年）が、路上に倒れた1台の自転車を白黒で描き、「気付いた時にはもうおそい」と訴えたほか、「キケンいねむり運転!!」「酒のんでる？フラフラだよ」「みんなにやさしい運転をお願いします」などと交通安全を呼びかけました。

東城交通安全協会の吉川洋昭会長は「交通安全の意識を高め、悲惨な事故の起こらない町になるよう、この機会に子どもたちの描いた交通安全ポスターを見てほしい」と話していました。



東城支所に展示された交通安全ポスター

新年が良い年となりますように

老人クラブ総領地区連合会が門松づくり



飾られた門松と老人クラブ総領地区連合会の皆さん

老人クラブ総領地区連合会が12月15日、今年も総領支所庁舎玄関前に高さ約2mの門松を作りしました。

「新しい年が皆さんにとって幸福で良い年となりますように」との願いを込めて、手作りの木枠の中に会員が持ち寄った葉ボタン、松、竹、梅、ナンテンをバランスよく組み合わせて飾りつけました。

この門松は1月中旬まで、総領支所のほか、総領の福祉施設「ともいきの里」、「ユーシャイン」にも置かれ、「見事な出来栄え」と来訪者を喜ばせていました。

東城の観光振興に職人が結束

東新会が檜灯籠・行灯を寄贈

東城のまちなみギャラリーや各地域のイベントなどに役立ててほしいと、(社)広島県建築士会県北支部東新会（東城在住の建築士など12人で構成）が1月9日、市役所東城支所へ檜灯籠（大）4基、（中）2基、行灯26基を寄贈しました。

建築士の社会貢献活動の普及を図ることを目的とした広島県の事業に取り組み、建築士の職能を生かそうと、地元の杉・木材を使い制作。歴史のあるまちなみ城下町をイメージした檜灯籠は、道行く人が風情を楽しみ、彩りを添えてくれそうだと市職員も喜びました。

東新会代表の酒井康博さんは、「自分たちの職を生かすことで地域のまちづくりに役立てれば」と胸を弾ませていました。



檜灯籠を説明する建築士

もちつきや作品づくりでふれあう

比和共同作業所「ゆめのいえ」が交流会

12月11日、比和共同作業所「ゆめのいえ」で交流会が開催されました。

この交流会は、「ゆめのいえ」の仲間や製作活動などを地域住民に知ってもらうことを目的として開催され、ボランティアを含め約40人が参加しました。

もちつきでは、参加者が交代に杵をつき、軽快なリズムに乗って見事なもちができました。作業所内では、「ゆめのいえ」で製作している作品の体験コーナーがあり、多くの来場者が作品づくりに挑戦しました。

つきたてのもちと温かい豚汁、参加者が持ち寄った漬物などで食事会が開かれ、みんなで楽しく交流しました。参加者は「もちつきや作品づくりなど楽しく参加できて良かった」「みんなでついたもちはとってもおいしいですね」と話していました。



つきたてのもちを丸める参加者

10割そばの打ち方を伝授

年越しそば打ち講座

年越しそば打ち講座が12月16日、グリーンポート吾妻路で開催され、関係者を含め18人が参加しました。

この講座は、地元の「比和そばの会」が主催したもので、比和産のそばを使った10割そばを打つことが特徴で人気があります。一般的に10割そばは、粘着力が弱く切れやすいと言われていたますが、比和の大自然で育ったそばは、10割で打っても腰が強く、市場の評価も高いため、県内外へ出荷されています。

参加者は、「比和そばの会」の指導を受けながら、熱心にそば打ちに取り組んでいました。打ち立てのそばは、早速かけそばにして試食。新そばの良い香りが会場いっぱいに広がりました。

参加者は「何度やってもそば打ちは奥が深い」「苦労して作った打ち立てのそばは、とてもおいしい」と話していました。



熱心にそばを打つ参加者

感謝の気持ちをカタチに

西城小が地域住民とベンチづくり

西城小学校や自治振興区の福祉担当者などで構成する「西城小学校区まるごと連絡会」が12月13日、杉の間伐材でベンチやプランター置きなどを作りました。

これは、広島県社会福祉協議会の「地域まるごと福祉教育推進事業」の一つで、「お世話になっている防犯パトロール隊や地域の皆さんに利用していただきたい」という児童の思いに、「なんとかしちやろう」と地域住民が支援する形で、取り組みが始まりました。

6年生が卒業制作を兼ねて参加。事前に木材の皮むき作業を手伝ったり、大人の製材作業を見学したりしてきました。この日は、組み立てとボルトを使った固定作業を行い、寒さを忘れて熱心に取り組んでいました。

今後、ニスなどを塗って3月には校庭の入口に設置する予定です。



丸太を組み合わせプランター置きを作る

「備北シンフォニー」としてブランド認証

備北商工会がクラシックでまちおこし

備北商工会は今年度、農産物の生産過程や加工食品の製造過程などでクラシック音楽を聴かせ、特産品の付加価値を高めようと「備北シンフォニーブランド確立展開スタートアップ事業」に取り組んでいます。

これは、動植物などにクラシック音楽を聴かせ、成長を促したり病気を予防したりという効果に目をつけ、地域が一体となって新ブランドの確立を目指すものです。また、クラシック音楽のまちとして知名度を高め、観光面でも地域の特色づくりにつなげていくのが狙いです。

この事業に、果樹園や飲食店など30事業所が参加。

1月23日に行われたブランド認証委員会では、クラシック音楽を聴かせて育てた農産物など20品目を「備北シンフォニー」としてブランド認証しました。

備北商工会の平岡さんは「クラシック音楽を聴かせる取り組みは、酒造会社など個人事業主が取り組むケースはいくつかあるが、地域として取り組むのは全国でも初めて。2月に開催される日本最大の商談型見本市東京ギフトショーに試作品を出展し、庄原発の全国展開を目指してがんばりたい」と話しています。

認証を受けた農産物は、来年度からロゴマーク入りシールを貼って販売する予定です。



試作品を確認する関係者

燃え上がる炎に願いを込める

正月の伝統行事「とんど」

しめ飾りなどの縁起物を燃やして無病息災を祈る、小正月（1月15日）の伝統行事「とんど祭り」が市内各地域で開催されました。

1月13日、七塚西自治会では地元消防団員が早朝から約50本の竹を切り、地区内の田んぼに約12メートルの「とんど」を準備しました。とんどの中にしめ縄や書き初めなどを入れ、年男がトーチで点火すると「パチパチ」と勢いよく燃え上がり、地元の住民や家族連れ約60人は、空高く燃え上がる炎に健康を願っていました。

とんどの炎を使って焼いたもちを食べると健康に過ごせるといい、焼き上がったもちを美味しそうにほおばっていました。また、参加者に竹酒が配られ、体の外から中まで温まりました。



燃え上がる炎を見つめる参加者

ママの力を結集しクリスマス会

ひだまり広場で親子が交流

ひだまり広場に集うお母さんが12月21日、保育所に通っていない親子にもクリスマスを楽しんでもらおうと、「手作りクリスマス会」を開催しました。

会場のひだまり広場には、手作りのクリスマス飾りが壁いっぱい飾られ、約80人の親子は歌とリズム遊び、南京玉すだれ、人形劇を楽しみました。

お母さんがサンタクロースに変装して部屋に入ってくると子どもたちの興奮も最高潮に。手作りのお菓子をプレゼントされ、笑顔が広がりました。



歌とリズム遊びを楽しむ